

(公社)全日本鍼灸学会東北支部A講座が1月15日(日)に福島医療専門学校にて開催されました。冬の嵐吹き荒れる寒冬の中でしたが、88名という多くの参加者に会場には熱気があふれていました。

●講演1

「脳の構造と機能」では、東北大学歯学研究科口腔器官構造学分野教授の市川博之先生にご講演いただきました。複雑で難解な脳についてですが、知っているようで知らない、明日誰かに話したくなるようなQ&Aをご提示いただき、身近な脳として興味をひかれました。また貴重な脳の部位ごとの資料は、参加学生の方々にとって解剖学の理解を深め、現役の先生方にとっては再確認そして再発見があったのではないかと思います。そして「脳を老化させないために」という内容は、東洋医学の特徴である未病の考えと関連が深く、鍼灸師のこれからの役割が期待されました。参加者からはもう少し聞きたかったとの声がありました。

●シンポジウム

「若手鍼灸師がみる未来(あした)の臨床」と題して、鍼灸免許取得後2~8年の若手鍼灸師6名の先生方にお集まりいただき、現状と将来の夢などご発言いただきました。開業されている先生方からは地域に根差した治療師としての志や鍼灸の伝統の伝承を展望とされていたり、病院勤務の先生方からは補完医療として患者様の薬を減らし、薬に頼らないようにすることを目標と

されていたりと、大志に燃えながら日々臨床に格闘している姿が垣間見られました。最後にベテランの先生お二人から、日々触れることで職人魂が出来上がっていくという激励のメッセージ、そして地域における家庭医に鍼灸師がなり得ることを力説いただき、プライマリケアの関わり方が将来の鍼灸の道を開くという心強いメッセージをいただきました。東北の鍼灸はこれからという力強い息吹を感じるシンポジウムになりました。

●講演2

「鍼灸臨床に必要な身体診察~ベッドサイドにて、この所見が出たら危険!~」では、福島県立医科大学会津医療センター漢方医学講座准教授の鈴木雅雄先生にご講演いただきました。まずワークショップ方式で、6名前後のグループにて患者と鍼灸師のやり取りのシナリオをもとに、疾患を鑑別していくという流れで始まりました。どのグループでも熱い討論が繰り広げられていました。アンケート結果には参加型が新鮮で良かったと好評でした。まとめとして鈴木雅雄先生から「人に教えることによって自分のスキルが上がる」ということから、グループ討論の有効性を説いていただきました。また数多くの経験は臨床能力の向上へつながり、自信が高まることは、患者様の満足度を高めることにつながるという臨床のモチベーションが上がるお話でした。

次年度の講座企画を立案中です、どうぞお楽しみにお待ちください。また皆様からのご意見やご要望の声をお寄せください。



「脳の構造と機能」のご講演いただいた東北大学の市川博之先生



シンポジストの先生方 6名(右) 指定発言者の先生 2名(左)



シンポジウムでは、現役学生の方々から疑問や質問が寄せられました。



ワークショップでは日ごろの学習の成果を発揮し熱い討論が交わされていました。



グループ担当のファシリテーターも熱が入りました。



会津医療センターの鈴木雅雄先生に診断のポイントを解説いただきました。